

# 図書館だより 11月号

中野区立中野東中学校  
校長 津村 慶  
学校図書館指導員

皆さん、秋といえばどんな言葉を連想しますか？「紅葉」「赤トンボ」「柿」「秋刀魚」「運動会」など…。これらはすべて秋の季語（俳句において特定の季節を表す言葉）です。今月は、俳句や短歌に関する本を紹介します。

参考『短歌・俳句（ポブラディア情報館）』ポブラ社

## 中野東中学校 読書週間のお知らせ

11月17日（月）から2週間が中野東中学校の「読書週間」です。好きな本を見つけて読書に取り組み、読書の楽しさやすばらしさに気づいてくれるとうれしいです。いろいろな本のコーナーがあるので、ぜひこの機会に学校図書館へ足を運んで、あなたの好きな1冊を見つけてください。

日時：11月17日（月）～11月28日（金） 8:25～8:35【朝読書】

\*11月17日（月）は生徒会朝礼のため朝読書はありません。

1年生は20日（木）から朝読書を開始します。

### ★本を忘れてしまったら？

読書週間期間中は各クラスの図書委員が「中野の100冊」から選んだ「学級文庫」を教室に準備します。

★各クラスの貸出名簿に名前を記入することで借りられます。

### 今月の特集

- ★詠んでみよう！俳句・短歌
- ★仕事・進路の本
- ★おいしい読書
- ★アートに触れよう！
- ★北原白秋の生涯と作品

読書期間中に貸し出された本の冊数は学年別読書の木で表されます！

おすすめ!



## 詠んでみよう！俳句・短歌

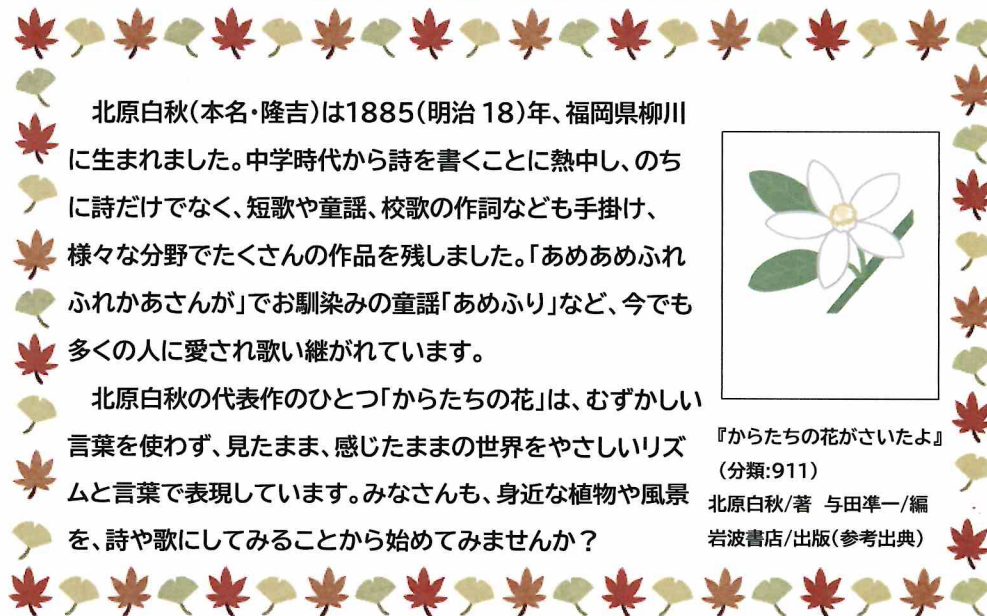
『リマ・トウジユ・リマ・トウジユ・トウジユ』（分類:913）

こまつあやこ/著 講談社/出版



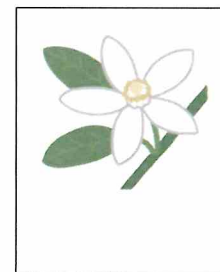
タイトルはマレーシア語で「五七五七七」。マレーシアからの帰国子女、沙弥は日本の中学に順応しようと四苦八苦。ある日、延滞本の督促で有名な「督促女王」から図書室に呼び出され、一緒に「ギンコウ」に行くことに。それは短歌の「吟行」のことだった…。

## 北原白秋生誕140周年



北原白秋（本名・隆吉）は1885（明治18）年、福岡県柳川に生まれました。中学時代から詩を書くことに熱中し、のちに詩だけでなく、短歌や童謡、校歌の作詞なども手掛け、様々な分野でたくさんの作品を残しました。「あめあめふれふれかあさんが」でお馴染みの童謡「あめふり」など、今でも多くの人に愛され歌い継がれています。

北原白秋の代表作のひとつ「からたちの花」は、むずかしい言葉を使わず、見たまま、感じたままの世界をやさしいリズムと言葉で表現しています。みなさんも、身近な植物や風景を、詩や歌にしてみることから始めてみませんか？



『からたちの花がさいたよ』（分類:911）

北原白秋/著 与田準一/編  
岩波書店/出版（参考出典）

## <先生おすすめの一冊>

『世界の一流は「休日」に何をしているのか』(分類:159)

越川慎司/著 クロスメディア・パブリッシング/出版

津村校長先生おすすめ

大企業のトップなど「一流」と言われる人たちの週末の過ごし方から、豊かな人生を送るためのヒントをつかむ本です。土曜日と日曜日に対する考え方や、自分に自信を取り戻し、行動力を高める4つのステップなど、次の一週間をよりパワフルに過ごすために必要な考え方や行動を学ぶことができます。大人向けの本ですが、10年後の“自分”を見据えて読んでみると、日々の過ごし方が変わるかもしれません。

仲村先生おすすめ

『岡田メソッド』(分類:783) 岡田武史/著 英治出版/出版

私のサッカーの師匠である方から頂いた本です。W杯を2回指揮した岡田武史さんによる「サッカーの型」についての本です。「サッカーの教科書」のような本ですが、チームマネジメントで大切なことも書かれています。チームで何かしたい、良いチームを作りたいと考えている人におすすめします!

小松先生おすすめ

『方舟』(分類:913) 夕木春央/著 講談社/出版

予想もつかない大どんでん返し! 読み始めたらあつという間です!

『コンビニ人間』(分類:913) 村田沙耶香/著 文藝春秋/出版

山田先生おすすめ

第155回芥川龍之介賞受賞作品。

幼い頃から周囲と感覚が異なり、社会に馴染めない古倉恵子は18年間続けるコンビニアルバイトの「マニュアル」を通して「普通」の人間を演じることで、社会の一員として生きてきた。しかし、同僚や友人からの結婚や就職へのプレッシャー、そして新しいアルバイトの白羽との出会いを通して、自身の生き方を見つめ直すことになる…。現代社会における「普通」とは何か。「普通」の基準とは何なのか。深く考えさせられる作品です。

『笑わない数学者』MATHEMATICAL GOODBYE』(分類:913)

森博嗣/著 講談社/出版

橋本先生おすすめ

伝説的数学者、天王寺翔蔵博士の住む館で、クリスマスパーティーが開かれた。人々がプラネタリウムに見とれている間に、庭の大きなオリオン像が消え、その後も館で次々と事件が…。トリックは、小説を丁寧に読んでいけば論理的にわかり、なるほどと思わず納得。「すべてはFになる」から始まる森博嗣先生のシリーズで、とても大好きな作品です。今もシリーズは続いており、10月にはようやく新刊も発売。推理小説好きな人、理系の人だけでなく、ぜひ多くの人に楽しんでほしいです!

『これからの「正義」の話をしよう いまを生き延びるための哲学』

(分類:311) マイケル・サンデル/著 早川書房/出版

大場先生おすすめ

「トロッコ問題」を知っていますか? これは「1人を殺せば5人が助かる。殺さなければ5人は死んでしまう。あなたは どうする」と言った難問です。ハーバード大学の有名な哲学の講義「JUSTICE」では、倫理的・社会的なジレンマ(2つの選択肢で選択が困難な状態)をサンデル教授が生徒に問い、みなで考えを深めていく中でよりよい社会の姿を考えるそうです。日常にも潜む難しい選択…あなたは理由や意見を持って選んでいますか?

『騎士団長殺し』(分類:913) 村上春樹/著 新潮社/出版

市川先生おすすめ

絵描きの主人公が離婚を機に友人である父である日本画家のアトリエに滞在するところから物語が始まります。その屋根裏で見つけた「騎士団長殺し」というタイトルの日本画と、画室裏の祠や石室、鈴にまつわる装置が現実の幻想とが交錯する奇妙な出来事を引き起こします。村上春樹らしい深く謎めいた世界が広がっています。

『ロスジェネの逆襲』(分類:913) 池井戸潤/著 ダイヤモンド社/出版

小暮先生おすすめ

子会社・東京セントラル証券に出向した「半沢直樹」の活躍を描く、シリーズ第3弾! 果たして、敵対関係となった親会社・東京中央銀行に「倍返し」できるのか!?

『読まずにわかるこあら式英語のニュアンス図鑑』(分類:913)

こあらの学校/著 KADOKAWA/出版

井上先生おすすめ

- ・shop と store のちがい
  - ・big と large のちがい
  - ・気持ちの強さで使いわける「好き」の表現
- など、覚えにくかったり、まぎらわしい内容をかわいいコアラがイラストで教えてくれます。

『つるかめ助産院』(分類:913) 小川糸/著 集英社/出版

鳥田先生おすすめ

“もし知らない島で新しい自分を見つけることになったらどうしますか?” 『つるかめ助産院』は、東京で暮らしていた女性“まりあ”が夫の失踪をきっかけに南の島へ向かいます。そこで「つるかめ助産院」の人々と出会います。島の人々は、ルーツはそれぞれ違いますが、温かく助け合いながら生きています。まりあはその中で命の大切さや人々の温かさに触れます。読み終えたときに、ほっと心が温かくなるお話です。ぜひ読んでみてください!!